

「キャリア面談で、上司が『何でも話してくれ』というのでついホンネを言ったら、突然態度が冷たくなった」(25歳、営業職)

## はじめに

「あ、『やりがい』とかいららないんで、とりあえず残業代ください」

たとえば会社のキャリア面談で、上司に対してこう言ったとしたら、どうなるでしょうか。

仮に上司との関係が良好で、それまで和やかに面談が行われていたとしても、この一言がきっかけになって場の空気は一変するに違いありません。

「君は、自分が何を言っているのかわかっているのか」

「君にはガツカリしたよ、もっと優秀な人だと思っていたのにね」

このように露骨に不快感を示され、面談がそこで打ち切られることになるかもしれない。ん。

たった一言、「やりがいよりもお金をくれ」と正直に言ったばかりに、それまで築き上げてきたあなたに対する評価は、跡形もなく消えてなくなってしまう可能性すらありま

す。

日本の会社では「やりがいはいらない」「残業代を払え」などとは、思っても絶対に口に出してはいけないことなのです。特に、仕事の「やりがい」を否定することは、日本の会社で働く人間にとっては最大のタブーです。

「やりがい」こそが仕事の究極の目的であり、「お金」はあくまで仕事のおまけ、生活に困らないだけもらえればいい——そんなふうを考えて毎日毎日、金銭的には全然割に合わない仕事をさせられている人は大勢います。

お金よりもやりがいが大事。これが、日本人が仕事に対してとるべき模範的な態度なのです。

しかし、考えてみるとこれはヘンな話です。

「やりがいよりもお金」と考えることは、そんなにもいけないことなのでしょうか。

仕事の「やりがい」なんてどうでもいいから、なるべく楽な仕事がしたい。

プライベートでやりたいことがたくさんあるので、仕事は別に「やりがい」のある仕事でなくてもいい。

表面上は仕事の「やりがい」を尊重するように振る舞っていたとしても、心の底ではこんなふうにいるという人、実は結構いるのではないのでしょうか。

僕たちが会社のために働くことで、その対価としてもらうことが約束されているのは、基本的には「給料」だけです。

仕事を仕事たらしめているのは、結局のところ「労務を会社に提供すること」と、その対価として「給料をもらうこと」の2点です。

「やりがい」は、あくまでその2点を満たした上で、人によっては得ることができるといふ「おまけ」にすぎません。

そんな「おまけ」にすぎない「やりがい」のために、労働の正当な対価である「残業代」がもらえなかったり、「やりがいのある仕事だから」という理由で、全然仕事に見合わない安い給料で働かされたりするのは、おかしいのではないのでしょうか。

本書のタイトルで、冒頭にも書いた、

「あ、『やりがい』とかいらなくて、とりあえず残業代ください」

という言葉は、ものすごくあたりまえのことを、あたりまえに言っているだけです。

こんなあたりまえのことを、あたりまえに言うことができない会社や、そういう会社が

「逆に、給料がたくさんもらえれば、仕事の『やりがい』だって少しは感じられるかもしれない」(29歳、事務職)

たくさん存在している社会は、はたして健全だと言えるのでしょうか。

現代の日本には、「働くこと」に付随する悲惨な話が山ほどあります。

サービス残業は多くの会社であたりまえのように行われていますし、KAROSH I（過労死）という言葉は、大変不名誉なことに英語の辞書にも載ってしまいました。

日本に赴任した外国人は、同僚の日本人が家族や自分の健康よりも仕事を優先して働くのを見て「クレイジーだ」と心から驚くと言います。

新卒で採用した未来ある若者を、心身がボロボロになるまで働かせて使い捨てる「ブラック企業」の存在は、いまや社会問題になっています。

仕事の原因で心や身体を病んでしまう人も少なくはありません。不幸なことに、中には仕事のせいで自ら命を絶ってしまう人すらいます。

**こんなに問題が山積みの状況では、実際のところ「やりがい」なんてものは二の次です。**

仕事がきちんと毎日定時に終わり、たまに残業をするにしても残業代は全額払われ、間違っても仕事の原因で、心や身体を壊すようなことはない——そういうあたりまえのことが全部実現できて、それではじめて「やりがい」を求めたいという人は求めればよい、と

いう話になるべきではないのでしょうか。

こういったあたりまえのことが全然できていないのに、仕事の「やりがい」ばかりを強調するのは、問題から目をそらしていることと一緒です。「やりがい」という響きのいい言葉を使い仕事を美化することで、**あたりまえのことが全然あたりまえにできていない悲惨な現状を誤魔化しているのです。**

ここで一度、冷静になって考えてみなければなりません。

この本では、「やりがい」のために働くことがいちばん大事で、そのためであれば他のものを犠牲にしても構わない、という従来の働き方とはまた別の選択肢を提案したいと考えています。

人間は、別に仕事のためだけに生きていくわけではありません。

結婚・出産・育児、趣味やボランティア活動など、仕事以外にも人生で重要なことは山ほどあります。

それこそ「やりがい」のある仕事につけなくても、こういった仕事以外の場面で自己実現をすることはいくらでも可能です。

それなのに、たかが仕事の「やりがい」のためにプライベートを犠牲にし、劣悪な労働環境でいいように使われて、心身ともにすり減ってしまうというのはアホらしいと思いませんか。

人生で何を優先するかを決められるのは、自分だけです。

仕事の「やりがい」よりも優先したいことがあるなら、それを優先できるような働き方を考える自由は、誰にでもあります。

この本で、1人でも多くの人の仕事の「やりがい」という呪縛から解き放たれることを祈っています。